

国際シンポジウム

超少子化に挑む日本と台湾

一子育て支援は人口減少の歯止めになるか

プログラム 通訳・日本語資料あり

12:30 開場

13:00 奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター 挨拶
松岡悦子センター長 (奈良女子大学生生活環境学部教授)

台湾側シンポジスト

蘇詩敏氏 (台湾台北市政府民政局科長)

「台北市が推進する子育て支援政策」

楊文山氏 (台湾中央研究院社会学研究所専任研究員)

「台湾の少子化要因と子育て支援政策評価」

日本側シンポジスト

清水鉄也氏 (大東市地方創生局課長)

「大東市における地方創生の取組～大東に住み、働き、楽しむ、子育てしやすい「職住楽」超近接のまちづくり～」

山縣文治氏 (関西大学人間健康学部教授)

「日本における少子化の状況と子ども家庭福祉施策の課題」

17:30 終了

18:00 懇親会

※懇親会に参加希望の方は、アジア・ジェンダー文化学研究センターまでご連絡ください。

コメンテーター：後藤達也 (大阪産業大学経済学部准教授)、

磯部 香 (奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター特任助教)

司 会：菊地真理 (大阪産業大学経済学部准教授)

日時：2017年7月16日 (日)

13:00～17:30

場所：奈良女子大学生生活環境学部
大会議室 (A棟1階)

主催：奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター

共催：大阪産業大学学内共同研究組織「育児ネットワークの定住促進効果に関する実証研究」

後援：大東市

協力：奈良女子大学ダイバーシティ研究協力環境支援本部



国立大学法人 奈良女子大学

〒630-8506 奈良市 北魚屋東町

現在、東アジアは少子高齢社会を迎えている。特に台湾は2010年、合計特殊出生率0.895という世界最低水準を記録して以降、少子化対策として手厚い出産奨励・子育て支援政策を実施している。そこで今回の国際シンポジウムにおいては、「超少子化」という共通の課題を有している日本と台湾の子育て支援政策に焦点を当て、政策を実践している行政、そしてその政策を評価する立場にある研究者をシンポジストとしてお招きし、日本と台湾双方が、どのような政策で「超少子化」を乗り越えようとしているのか、またその少子化要因を家族やジェンダー等の文脈の中でどのように捉え、評価しているのかを共に考えてみたい。

講演者プロフィール



●蘇詩敏氏（台湾台北市政府民政局科長）

台湾大学大学院政治研究所修了。台北市大安区戸政事務所課長、戸籍行政科専門員を経て現職。出産・子育て支援政策、人口政策、同性カップルにフレンドリーな環境づくりの推進、新移民の支援、外国人の帰化業務に携わる。

●楊文山氏（台湾中央研究院社会学研究所専任研究員）

アメリカ、オースティン大学博士号取得（社会学）。アメリカ疾病管理予防センター（Centers for Disease Control）研究専門家を経て、現職。台湾人口学会理事長及び中華民国行政院人口政策委員を歴任。専門は医療社会学、家族社会学、統計調査。2013年『人口政策白書』作成に携わる。少子高齢化が進行する台湾の人口推移、移民政策の検討などを研究。



●清水鉄也氏（大東市地方創生局課長）

大東市出身、大東市在住。1995年に大東市役所に入職。これまで、土木、下水道の現場から都市政策、交通対策、環境政策、住民自治などの政策立案まで、幅広く経験。2016年8月から現職となり、人口減少、地域経済の低迷、インフラの老朽化など、大東市が抱える都市の経営課題解決に向けて取り組んでいる。



●山縣文治氏（関西大学人間健康学部教授）

1954年生。大阪市立大学教授を経て、2012年より関西大学人間健康学部教授。専門は、社会福祉、子ども家庭福祉。とりわけ、子育て支援、就学前保育・教育制度、社会的養護など。



奈良女子大学へは
近鉄奈良駅から徒歩約5分です。
右記「QRコード」からアクセス
詳細を見ることができます。



託児が必要な方に託児サービス（有料）を紹介します。
下記までお問い合わせください。

問い合わせ先
奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター
〒630-8506 奈良市北魚屋東町
電話番号：0742-20-3611
E-mail：a-gender.c@cc.nara-wu.ac.jp